

川入遺跡

調査期間 令和6年5月20日～5月24日

場所 岡山市北区川入

遺跡の概要

川入遺跡は吉備の中山の西側平野部に位置する弥生時代から中世にかけての集落を中心とした遺跡です。山陽新幹線建設や道路拡幅による発掘調査で弥生時代を中心とした拠点集落や古代の公的な施設と考えられる掘立柱建物群など多くの遺物・遺構が見つかっています。

今回は岡山県道245号線真金吉備線の一部道路拡幅に伴い、発掘調査を行いました。調査地点は過去の調査地点から約600m北の地点に立地しています。

調査の概要

調査の結果、弥生土器を含む遺物包含層や中世以降の溝を確認しました。以下に、その概要について述べます。

調査は南北に長いトレンチを1本設定し進めました。調査区北側では標高1.7m付近から東西方向にのびる、幅約4.5m、深さ約1.0mの溝を確認しました。溝の上端は後世の削平により失われています。溝の底の埋土9層からは土師質土器碗、備前焼すり鉢、獣骨が出土しました。図化できた土師質土器は13世紀後半、すり鉢は14世紀のものと考えられます。

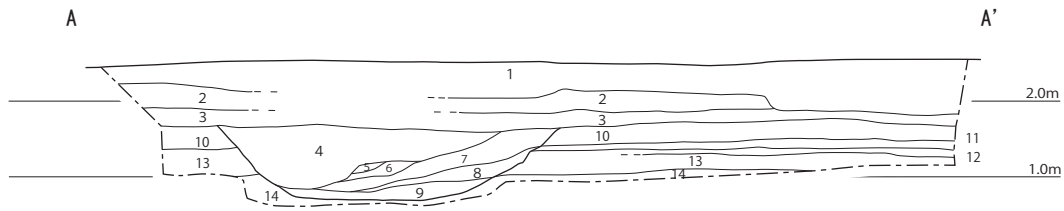
調査区の南側では11～13層で弥生土器を一定量包含する層を確認できました。出土量は13層中が最も多くなっています。北側に向かって緩く傾斜する地形上に溜まったものと考えられます。器種は壺・甕・高杯が確認できますが、破片が多く接合できる個体は少ないです。時期は弥生時代中期後半から後期前半と考えられます。近辺は調査事例がないため詳細は不明ですが、これらの土器の出土は遺跡に関わる微高地の広がり的一端を示します。柱穴や土壇など、その他の遺構は確認できませんでした。

まとめ

今回の調査では、限られた面積の調査区であったため集落等に関する明確な遺構は確認できませんでした。現在、新幹線沿いに位置する川入遺跡は弥生・古墳時代の集落域、古代の官衙域が営まれました。今度の調査の微高地が、それと一連のものか、別のものかについては、引き続き調査の課題として挙げられます。



図1 川入遺跡の位置 (1:10,000)



- | | | |
|------------------------------------|--------------------------|-------------------------|
| 1 黄褐色 (10YR4/6) 細砂 | 6 オリーブ黒色 (10Y3/1) 混砂シルト | 11 黄褐色 (10YR5/6) シルト質微砂 |
| 2 灰黄褐色 (10YR4/2) 微砂細砂 | 7 褐灰色 (10YR3/1) 微砂 | 12 黒褐色 (10YR3/1) シルト質微砂 |
| 3 褐灰色 (10YR4/1) 砂質微砂 | 8 灰色 (10Y4/1) 砂層 | 13 褐灰色 (10YR4/1) シルト質微砂 |
| 4 黄褐色 (10YR5/6) ~ 褐灰色 (10YR4/1) 砂層 | 9 オリーブ黒色 (10Y3/1) シルト質 | 14 オリーブ黒色 (10Y3/1) シルト |
| 5 灰色 (10Y4/1) シルト | 10 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト質微砂 | |

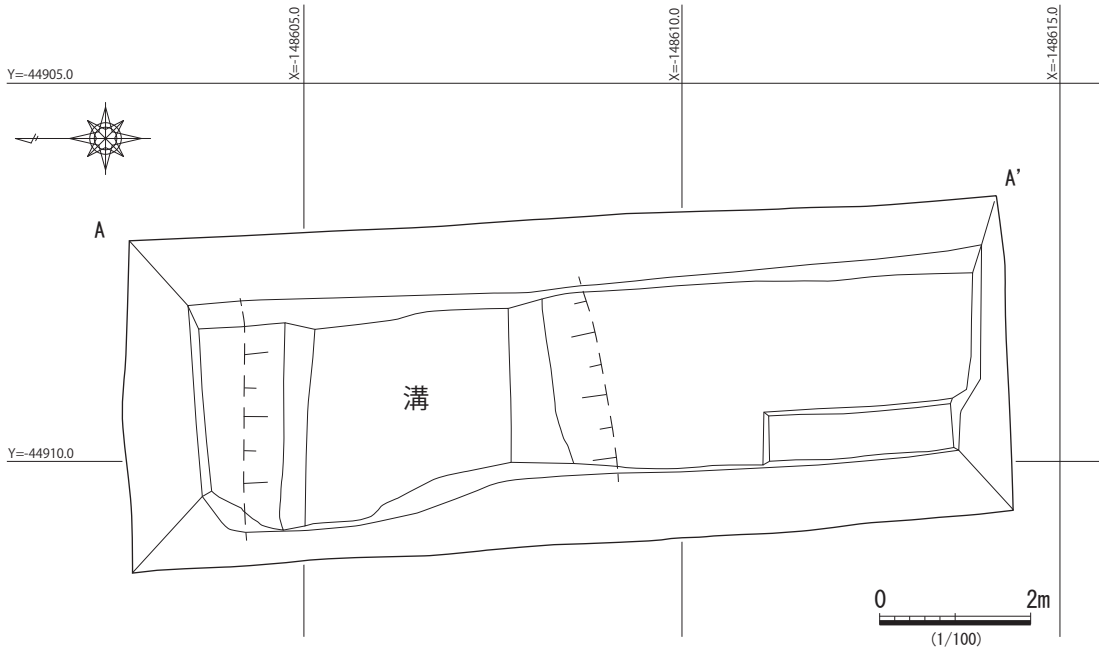


図2 調査区平面図、東壁断面図 (S= 1/100)

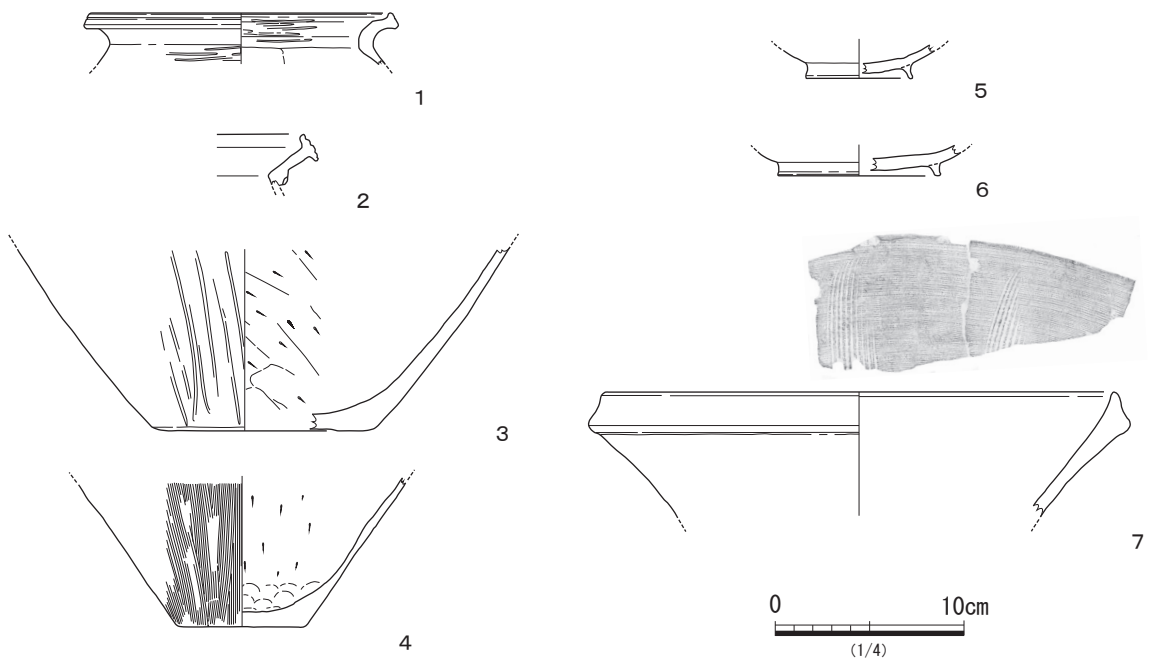


図3 調査区出土土器 (S= 1/4)